ＪＲ東海労なごや

2013年６月２３日 No.969
JR 東海労名古屋地方本部
発行者：　山　田　哲　也
編集者：　堀　部　　肇

68回目の慰霊の日を迎えて

沖縄戦はまだ終わっていない

６月２３日沖縄は６８回目の慰霊の日を迎えます。日本に置いて唯一地上戦がおこなわれた沖縄では、多くの民間人が犠牲になりました。沖縄県民の４人に１人が犠牲になった言われています。幸いにも助かった人たちもいまだに戦争の影におびえています。沖縄戦体験者の４割が心的外傷後ストレス障害（ＰＴＳＤ）に悩まされています。（２０１３.6.15沖縄タイムス）

花火・雷・音光それに軍用機でよみがえる戦闘場面

地獄のような悲惨な体験は６８年経ても、「花火や雷の音や光」「軍用機」などがきっかけで発症するといわれています。沖縄においては米兵が起こす不祥事、またオスプレイが強行配備され、訓練が繰り返されています。沖縄戦体験者は軍人が起こす事件やオスプレイの姿や騒音に沖縄戦が再現されるのです。体験談は悲惨です。ガマと呼ばれた壕の中で軍から自決用に渡された手りゅう弾で腕の中に抱いた幼子とともに爆発させ、自らは助かり片腕と幼子を亡くしたという人は幼子と共に無くなった手が今なお痛むという話を聞いたことがあります。沖縄戦は６８年たった今でもよみがえるのです。いまだに薬がないと眠れなかったり、急に不安に襲われるなど症状は様々です。

沖縄の人たちの心の平安はいつ来るのか

心の傷は過酷な体験によりつけられ、理不尽な人々によりさらに傷を深めさせられています。癒すための努力をしない限り心の傷は消えることはないのです。いまだ苦しむ沖縄の人たちに心のケアを早急にしなければならないと地元紙は訴えています。８０歳を超えていまだに戦争の影におびえる人たちを国はどう思っているのでしょう。オスプレイは日米合意に反し訓練は激しさを増しています。今日も沖縄の空を我がもの顔で飛んでいます。何よりも沖縄戦で苦しめた人達を今なお苦しめ続けているのです。島のおじぃ、おばぁはまだ戦争の真っただ中にいるのです。私たちは二度と悲惨な状況を作らないため努力しなければいけません。

見えない傷を癒やすのは平和しかない！